

# 市長とミライとーく 報告書

令和7年1月10日

|       |                              |     |    |
|-------|------------------------------|-----|----|
| 日 時   | 令和 6年12月21日(土) 13:30 ~ 15:00 |     |    |
| 会 場   | 関市役所7階 つなぐガーデン (関市若草通3丁目1番地) |     |    |
| 対 象 者 | 16~39歳までの関市在住または出身者          | 参加者 | 9人 |
| テ ー マ | めざせ!若者に選ばれるまち                |     |    |
| 担 当 課 | 市長公室 企画広報課・秘書課               |     |    |

【参加者からの意見及び提案】 ※要約

## 1. なぜ若者は関市を出ていくのか(原因)

### (1) 金銭的支援

- ・関市に戻ってくる(来る)ためには金銭的なお得感が足りない。  
ふるさと納税の財源を使い思い切った子ども支援など、インパクトが無い。  
(他市町村である、3人目の子供に100万円支給など)
- ・Uターンの若者への財政的支援  
以外に実家ではなく一人暮らしをする若者が多い。家賃に車を所有となると支出が多い。  
⇒給与が高く、車を所持しなくても生活できる都市圏に流れてしまう。

### (2) 交通

- ・生活に車が必要で若い世代には負担が大きい。  
また、将来免許を返納した時に生活が成り立つか不安。
- ・市外へのアクセス(高速名古屋線や、東海環状、東海北陸など)は便利だが、市内の移動が弱い(公共交通機関)。

### (4) 教育

- ・田舎だと教育レベルが低いと認識を持たれることが多いのでは。  
同学年の人数が少ないと教員数も少なくなる、塾の有無など都会よりも不利。

### (5) 就業

- ・市内は製造業が多く女性が働く場が無いイメージがある。  
実際は女性も働きやすい職場は多いのに、求職者に情報が届かないことが問題。
- ・若者は大企業のネームバリューに魅力を感じ、都市部へ流れてしまう。

## 2. 若者に選ばれる関市とは(対策)

### (1) 関市のライフイベント

- ・他市町村との比較や、どれだけお得になるのかモデルケースで試算して金額を宣伝するなど、分かり易くすると効果が出るのではないかと。

- ・目玉となるような支援（金額面でインパクト）があると注目を得られる。  
⇒現在の支援では、「出ていかない」施策となっていて、関市に戻ろうと思えるほどのインパクトが無い（見えてこない）ため、目玉施策を作ってPRするとよい。

## (2) 教育

- ・都市部と田舎での教育レベルに差があるという認識を払拭するような（例えば先進的な英語教育など）教育を実施したり、塾に通う学生の補助制度があるとよい。  
⇒関市で子育てしたいと思ってもらえる。Uターンに繋がる。

## (3) 情報発信

- ・今の若者世代は、ライフイベントに対して補助金があるかは調べている。広報（紙媒体）より、ホームページやSNSを見る。（LINEよりインスタ）  
⇒あんしんメールを登録している人は多い。あんしんメールからLINEやインスタ等に誘導できるよう相互リンクを貼るのが有効。

## (4) 良いところをさらに伸ばす

- ・小学校の課題解決型学習では地域と関わる機会が多く、知れば知るほど関市を好きになれた。  
⇒小学校の課題解決型学習、中学校、高校の地域探求活動で、刃物などの文化を学習する機会や、大人や地域の方と触れ合う機会・体験が多い。地域との繋がりが希薄になる中、学習を通じて地域の大人と交流する機会は大切。こういった経験を通じて大人になったとき、自分の子どもを関市で育てたいと思ってもらえる。

## (5) その他

- ・Uターンし、関市で暮していくイメージを持ってもらう仕組みづくりが必要。  
⇒関市でのライフプランが想像できなければ移住定住が難しいのではないか。実際に関市にUターンした人、移住した人を紹介するとイメージしやすい。

### 【担当者の考え】

今回、人口流出という難しいテーマについて考察したが、関市に転入した方や就職を期に関市を転出した方、また就職活動を迎え、関市を出る出ないの選択をする方など、参加者の生の声を聴くことができ、貴重な機会となった。

その中で、金銭面での不安や将来の不透明性に対する不懸念の声が多く挙がった。物価高騰が続く社会情勢も影響していると思われるが、関市で暮らしていく将来像をイメージしてもらうことが重要だと感じた。そのために、金銭的支援・環境整備の他、対象となる世代に最適な媒体で、かつ効果的な情報発信を通じて、周知に努めていきたい。

### 【今後の対応】

- ・政策やイベント等の周知方法（比較やモデルケースの紹介など）の改善。
- ・あんしんメールに他媒体のリンクを掲載し、相互リンクを形成。複数の媒体へ誘導を促す。

【当日の様子】

